



MEIKAI-JOEプラス2023
第13回授業研究講座

土浦市立中村小学校 3年生



2023年8月22日 (火)

テーマ「ティーム・ティーチング」

単元名： Unit 5 What do you like ? (Let's Try! 1)

本時の目標：

- 学級の友達が好きな食べ物を知るために、相手に伝わるように工夫しながら尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。(思考力、判断力、表現力等)
- 学級の友達が好きな食べ物を知るために、相手に伝わるように工夫しながら尋ねたり答えたりして伝え合おうとしている。(学びに向かう力、人間性等)

協議テーマ：

- Small Talkが効果的だったか。
- ティーム・ティーチングをさらに充実させるにはどうすればよいか。

研究授業の振り返り(1)

導入：

- ・挨拶：HRT、ALTと児童
- ・Chants 1：挨拶
- ・Chants 2：色の確認（choral）→ What color do you like?（chants）

Small Talk：

- ・What color do you like?（pair work）
- ・What sport do you like?（choral → pair work）
- ・What fruit do you like?（fruitの確認：choral → pair work）



研究授業の振り返り(2)

課題の確認 : 「3年2組で人気の食べ物は何でしょうか」

Activity :

- HRTとALTのモデル対話
- 結果予想
- pair work (クラス内活動)
- 留意点の指導
- ランキング確認
- 振り返り&ALTとのQA



観察の視点

1 HRTとALTの役割分担：

ALTの役割から考える

2 話す必然性のある活動：

言語活動の工夫を考える



視点1 HRTとALTの役割分担

ALTの役割

- 児童の発話を引き出す英語の提供
(教師との会話モデル提示、児童とのやり取りなど)
- 異文化理解の促進
- 児童のコミュニケーション意欲や学習意欲の向上

(文部科学省)



A. HRTとのデモンストレーション



B. インタビュー活動への参加（リアクションの例示）



C. 単語発音練習（日本語との違いを強調）



D. 本時の振り返りのQ & A

チーム・ティーチングにおけるT1、T2の役割分担

HRT（学級担任）の役割 **T1です！**

- ・児童・生徒についてよく知っている。
→ 個に応じた発問、受けとめ、支援ができる。
- ・英語母語話者ではない、学習者である。
→ 英語を学ぶ人・使う人としてのロールモデルを示すことができる。
- ・継続して指導を行うことができる。
→ 授業を改善できる。

☆ 自信をもって指導にあたりましょう！

ALT（英語指導助手） **T2です！**

- ・英語母語話者または使用者である。
→ 音声の特徴、文化について指導することができる。
 - 児童・生徒が英語を使う必然性を作り出すことができる。
 - ・指導においてHRTのパートナーである。
→ 児童・生徒の活動を見取り、HRTに情報を提供することができる。
- ☆ 母語話者としての特性を生かして指導しましょう。

互いに英語でコミュニケーションを図り児童・生徒のモデルになりましょう！
信頼関係を構築しましょう！

チーム・ティーチングの充実にに向けた提案

○HRTとALTによる会話モデルの提示

- ・リアクションや好ましくない例も含めて、会話モデルで示す
 - 児童が、自らコミュニケーションのとり方（相手意識）について考え、判断する機会を設ける
- ・会話モデルの提示後、段階的にQ&A+リアクションで口慣らしさせる
 - HRTとALT→ALTとクラス→児童と児童
 - HRT・ALTに児童が質問して、リアクションする



ティーム・ティーチングの充実に向けた提案

○異文化理解の促進

- ・「好きな食べ物」を自由に言わせる場面を創る

→ 英語でどのように言うのかや、日本語との違いなどを新たに知ることで、英語を学ぶ意欲につなげる

(例) potato → french fries



視点2 話す必然性のある活動

言語活動について

- コミュニケーションを行う目的、場面、状況などを明確に設定
- 児童が進んでコミュニケーションを図りたいと思うような興味・関心のある題材や活動を扱う
- 単なる反復練習のようなやり取りではなく、伝え合う目的や必然性のある場面でのコミュニケーション
- 聞く活動を十分に行った上でまねをして言い慣れる
「口慣らし」→「慣れ親しませる」→「活用させる」
- 間違えても大丈夫という雰囲気をつくっておく

(文部科学省)



A. リアクションの練習



C. 中間指導での好ましくないリアクションモデルの提示



B. クラス内インタビュー



必然性のある言語活動への提案

○「相手意識」をもたせるやり取り 1

- ・自然なコミュニケーションができるよう、シートを持たせない
 - (例) 会話が終わったら、好きな食べ物と名前を書いた紙片を渡す。
 - (例) food, fruit, vegetable, noodleについても尋ねる。



必然性のある言語活動への提案

○「相手意識」をもたせるやり取り 2

- ・練習したパターンを繰り返す発話から、既習事項を入れて段階的に会話を活性化させる

→(例) A: I like pizza. Do you like pizza?

B: No.

A: What food do you like?

B: I like noodles.

A: Me, too.



必然性のある言語活動への提案

○コミュニケーションの楽しさや大切さを知る活動1

- ・クラス内の「好きな食べ物ランキング」を作る。
 - (例) 好きな食べ物 1 つでなく、2 番目、3 番目についても聞き取り調査してランキングを作る。
 - (例) グループでランキングを作って比較する。



必然性のある言語活動への提案

○コミュニケーションの楽しさや大切さを知る活動2

- ・型どおりの練習を経て、楽しいコミュニケーションにつなげる
→ どんな調理法、どこの食品、お店のものが美味しいか、など、話題を広げて、ALTに紹介するなどの活動にもつなげることができる。



単元終末での姿



単元終わりでの活動の様子

参考資料

『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』（平成29年7月 文部科学省）

『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』（2017年 文部科学省）

『小学校外国語教育の指導と評価』（2021年 直山木綿子監修 文溪堂）

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校外国語・外国語活動』（2020年 国立教育政策研究所教育課程研究センター）

『小学校英語の教え方 25のルール』（2018年 佐藤久美子著 講談社）

